

外国語活動 外国語

Foreign Languages

外国語活動・外国語科は、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図るための資質・能力を育成する教科です。

そのためには、単元など、まとまりのある時間の中で、教材や教科書の題材に関連した具体的な課題を設定し、その課題解決に向け、目的・場面・状況のある外国語の言語活動に繰り返し取り組む中で、言語材料を実際のコミュニケーションにおいて活用できる力や情報を整理し表現する力を身に付けていくことが大切です。

【外国語活動・外国語科のページで使用されている用語解説】

言語材料	単元の中で習得すべき語彙や表現、文法のこと。その他にも音声や文字、符号、連語及び慣用表現、文構造も入る。 外国語活動では、このうち、目標を達成する上で、必要なものを選択して扱う。
言語活動	簡単な情報や考えを伝え合う活動のこと。 言語材料を理解したり練習したりする活動（チャンツ、パターンプラクティス等）とは区別される。
領域統合	「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」の5領域のうち、複数の領域を関連させた言語活動のこと。 P144 を参照
教材と教科書	教材：外国語活動で使用する冊子等のこと。 教科書：外国語科で使用する冊子等のこと。
必要感のある言語活動	児童生徒がコミュニケーションをする必要性を感じられる活動のこと。必要感のある言語活動とするためには、現実社会において存在する場面や、明確な活動目的を設定するなどの工夫が大切となる。

1 単元のつくり方

外国語活動・外国語科は、第1章の2で示すAパターンの単元の構想が多くなります。「つかむ」過程では、単元の課題を立てるとともに、課題解決に向けた学習の見通しをもたせます。「追究する」過程では、言語活動を通して新出言語材料を習得させたり、教材の活動や教科書の本文に関する活動に取り組みさせたりします。そして、「まとめる」過程では、思いや考えを伝え合う活動に取り組み、単元を通じて言えたことやできるようになったことを自覚させるようにします。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

- 単元の課題は、児童生徒が必要感をもって取り組めるよう、活動の「目的・場面・状況」をしっかりと設定する。
- 単元の課題は教材や教科書の題材と関連させる。
- 小学校では、児童が「目的・場面・状況」を把握し、「やってみたい」といった意欲をもたせられるよう、単元の課題を解決するための姿（発話例）を教師の実演で示す。
- 「試しの活動」は既習事項だけで取り組ませる。

- A**では、新出言語材料に触れる活動が中心となるが、言語材料に触れるだけでなく、授業の中に、必ず言語活動を設定する。
- 小学校では、**A****B****C**に対応している活動が教材にあるため、児童が取り組む活動が**A****B****C**のどれに当たるか意識し、単位時間を構成する。
- 小学校では**A****B****C**は順番に指導するが、**A**+**B**、**B**+**C**と単位時間の中で組み合わせて指導することもある。
- 中学校では、効果的な指導となるよう**C**の指導順位を調整する。
- 単元の課題の解決に向けて、必要な知識及び技能を習得させるとともに、解決の元となる情報を得たり、考えを整理したりできるように**A****B****C**を計画的に取り組ませる。

- 単元を通じての学びを自覚できるように、言語面として伝えられたことや、内容面として新たに気付いたり、感じたりしたことを振り返らせる。

過程と基本的な学習活動

1 単元の課題を把握する。

◇教材や教科書の題材に触れる。

課題提示型

- ◇単元の課題に出合う。(教師が提示する。)
- ◇活動の「目的・場面・状況」を確認する。

課題発見型

- ◇教師が提示する「場面・状況」を捉える。
- ◇単元の課題を発見する。
→単元の課題を解決する「目的」をもつ。

【単元の課題】

〈必要感をもって思いや考えを伝え合う活動〉

- ◇「試しの活動」として単元の課題に取り組む。
※外国語活動では、既習事項が少ないため、行わない場合もある。
※中学校では「CAN-DOリスト」との整合性を図る。

2 単元の課題の解決に向け、 単位時間ごとに追究する。

単位時間

【めあてをつかむ】

- A** 「単元の課題の解決」に向けて、新出言語材料に触れる。
- B** 新出言語材料を活用する言語活動に取り組む。
- C** 教材にあるまとめの活動や、教科書の本文理解など、本文に関する言語活動に取り組む。

【振り返り】

※言語面・内容面

単位時間

単位時間

単位時間

追
究
す
る

ま
と
め
る

3 単元の課題を解決する。

- ◇「追究する」過程で習得した知識及び技能や整理した情報、考えなどを活用し、単元の課題に示された伝え合う活動に取り組む。
- ◇単元全体の学習の振り返りをする。

単元全体の振り返り

小学校 第4学年

「Unit 7 What do you want?」(全5時間計画)

【目標】

欲しい食材などを集め、オリジナルメニューを自分で考えて紹介し合う。

1 単元の課題を把握する。 **課題提示型**

- ◇教材の題材名や絵について、児童とやり取りする。
- ◇オリジナルピザを考え、必要な食材を集めて、ピザを作って紹介し合い、食べたいピザを決めるコンテストをすることを知らず。

【目的・場面・状況等の把握】

【単元の課題】 食べたいピザを決めるコンテストで人気を得るために、欲しい食材を集め、自分の考えたピザを紹介し合おう。

- ◇オリジナルピザを考え、そのピザを紹介し合うために、どのような表現を学ぶのかを知る。

2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究をする。

A ①食材の言い方を知り、聞いたり言ったりしよう。
教材にある音やリズムに合わせてたくさんの食材の言い方を知り、英語で言えた。

A ②お店でほしい食材を集めよう。
ほしいものを尋ねたり、伝えたりする時、「What do you want?」「I want ○○。」と言うことが分かった。

C ③食材を集め、オリジナルパフェを作って紹介し合おう。(※単元の課題の前に類似した課題に取り組む)。
これまで勉強してきたことを使って、友だちとやり取りして食材を集め、オリジナルパフェを紹介することができた。

3 単元の課題を解決する。

- ◇オリジナルピザを紹介し合う。
- ◇クラスの中で自分が食べたいピザに投票する。
- ◇オリジナルピザを紹介し合う言語活動について振り返る。

「トマト」を英語の発音で言えた。「What do you want?」と聞かれた時、「please」でも欲しい物を伝えることができた。【言語面】

自分が考えて紹介した「チーズたくさんの元気が出るピザ」はたくさんの人に「食べてみたい」って言ってもらえた。【内容面】

中学校 第1学年

「Lesson 3 Hello, Everyone.」(TOTAL ENGLISH)

【目標】

(全6時間計画)

ALTの母に質問を含めた自己紹介の手紙(返事)を書くことができるようにする。

1 単元の課題を把握する。 **課題発見型**

- ◇教科書の絵や題材名を見て、状況や場面等について、教師と生徒でやり取りし、類推する。
- ◇ALTの母から学校へ手紙が来ていることを知る。
- ◇ALTの母へどのような返事を書きたいか話し合う。

【目的・場面・状況等の把握】

【単元の課題】 アメリカに住むALTの母に自分のことや学校のことを知ってもらうために、質問を含めた自己紹介文(手紙)を書こう。

- ◇ペアで自己紹介し合って、自己紹介文を書く。(試しの活動)
- ◇手紙を書くために、何を学ぶのかを知る。

2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究をする。

C ①転校生Benについて聞き取ったり、読み取ったりしよう。
Benの出身や好きなことについて聞き取ることができた。出身は「I'm from ~.」で表現することが分かった。

A ②好きなことについて尋ね合おう。
疑問文や否定文の作り方がよく分かった。教科書のやり取りを参考に、ペアで好きなことを尋ね合うことができた。

B ③ALTの自己紹介を聞き、もっと知りたいことを尋ねよう。
「Do you ~?」「Are you ~?」の疑問文を使うことができるようになった。ALTは野球とお寿司が好きなことが分かった。

B ④自己紹介をして、もっと知りたいことを尋ね合おう。
自己紹介した後にやり取りして相手のことを知ることができた。

3 単元の課題を解決する。

- ◇文章の構成を意識しながら、ALTの母に返事の手紙を書く。
- ◇単元のはじめに書いた自己紹介の原稿と比較するとともに、単元全体を振り返る。

最初の時間に書いた手紙と比べると「Do you ~?」「Are you ~?」を入れて相手に関心を示す返事を書くことができるようになった。【言語面】

自分の手紙を読んでどんなことを思ったか、ALTのお母さんに聞いてみたい。【内容面】

2 単位時間の作り方（「つかむ」過程）【例】

「つかむ」過程では、単元の課題についての「目的・場面・状況」を把握させることで、本単元の学習の見通しをもたせるとともに学習への興味・関心をもたせるようにします。

【指導のポイント】

【あいさつ・ウォームアップ】

○あいさつに続くやり取りでは、天気や曜日、日付だけでなく学習段階に合わせ、既習事項を含むやり取りにする。

【「単元の課題」の設定】

- 「必要感をもって思いや考えを伝え合う活動」は、以下の点を含むものとする。
- ◆目的・場面・状況がある。
(実際にある場面、想定した場面、ゲーム性のある活動)
 - ◆教材や教科書の題材と関連している。
 - ◆自分の思いや考えを伝え合っている。
 - ◆思いや考えなどを伝え合う「英語」も児童生徒が思考・判断している。
 - ◆既習事項を繰り返し使用する活動となっている。

【課題設定の流れの具体例：中学校3年生】

- ① To Our Future Generation (NEW HORIZON3)
 - ② ALTは日本で地震が多いが、避難する時の情報がこの町にはないのでとても不安を感じている。
(「目的・場面・状況」の把握)
↓
 - ③ 「災害時に安心して外国人が避難できるために、パンフレットを作って説明しよう。」(単元の課題)
- ※小学校では、教師が実演で示し、内容について児童に問いかけながら、一緒に課題を設定してもよい。

【「つかむ」過程の本時の活動】

- 試しの活動は、単元の課題を解決する活動と同じでない場合でも、つながる活動にする。
- 【試しの活動の具体例：中学校3年生】
- <単元の課題>
「ロボットと生活することについてディベートをしよう。」
↓
- <試しの活動>
「既習事項を使ってロボットと生活することについて賛成か反対か、ペアで伝え合おう。」
※単元の課題の解決につながる活動
- 試しの活動に取り組ませ、単元の課題解決のためには何を学ぶ必要があるか確認させることで見通しをもたせる。

基本的な流れ

1 あいさつ・ウォームアップをする。

- あいさつに続けて、簡単な教師の問いに対し、英語で答えさせる。
※小学校では歌やチャンツを行う等、英語を学ぶ意欲をもたせる。

2 単元の課題をつかむ。

- 教材や教科書の題材名や絵等を使って、児童生徒とやり取りしながら類推させ、題材に触れさせる。
- **課題提示型** または **課題発見型** により課題に出合い、「目的・場面・状況」を捉えさせる。

【単元の課題】

〈必要感をもって思いや考えを伝え合う活動〉

3 本時のめあてをつかむ。

- 「試しの活動」として既習事項を使い、単元の課題を解決する活動に取り組むことを確認させる。

【本時のめあて】

- ※「試しの活動」は既習事項が少ない段階では行わない。
- ※外国語活動で、試しの活動を行わない場合は「追究する」過程の学習に進む。

4 本時の活動に取り組む。

- 新出言語材料の必要性に気付けるように単元の課題を解決する活動に取り組ませる。(試しの活動)
- 単元の見通しをもたせる。

5 本時の振り返りをする。

- 言語面と内容面について、本時の学習を振り返らせる。

単位時間の振り返り ※個人

※中学校1年生では、小学校で体験している活動をウォームアップの中に取り入れたり、言語活動に取り組む際に、小学校での学習内容を想起させたりするなど、小中の学びのつながりを意識できるようにする。

小学校 第4学年

「Unit 7 What do you want?」

A

【ねらい】

おはじきゲームやチャンツを通して、本単元で学習する語句の言い方に慣れ親しむようにする。

1 あいさつ・ウォームアップをする。

- 体で食べ物を表現しながら「バナナチャンツ」に取り組みさせる。

2 単元の課題をつかむ。 **課題提示型**

- 教材の題材名や絵について教師と児童でやり取りし、題材の内容について類推させる。
- 単元の課題を解決した姿を教師が実演し、その内容を類推させる。

T1: Hi! This is a colorful pizza. (作ったピザを見せる)
 T2: Oh, nice.
 T1: I have tomatoes, corn, green peppers and sausages. I like tomatoes. So I have four tomatoes. This is a colorful pizza.
 T2: Oh, it's a great pizza!
 T1: Thank you.

先生たちはどんな話をしたかな?



ピザのトッピングの話をしていた。

先生が考えたピザじゃないかなあ。



この単元では、みんなでオリジナルピザを考えて、誰が作ったオリジナルピザを食べてみたいかクラスの中で投票しましょう。



【単元の課題】

食べたいピザを決めるコンテストで人気を得るために、欲しい食材を集め、自分の考えたピザを紹介しよう。

3 本時のめあてをつかむ。

- 食材の言い方に慣れ親しませる。

【本時のめあて】

食材の言い方を知り、聞いたり言ったりしよう。

4 本時の活動に取り組む。

- (1) おはじきゲーム
食材の言い方に慣れ親しませる。
- (2) チャンツ
欲しいものを尋ねたり要求したりする語句をリズムに合わせて言わせる。
- (3) 映像
世界と日本の市場の違いについて考えさせる。



5 本時の振り返りをする。

- はじめて知った食材の言い方や、ゲームの中で言うことができた食材の言い方について振り返らせる。

- ☆ゲームの中でオニオンやキャロットの英語を言えた。
- ☆トマトは英語で言うときちょっと難しい。

中学校 第1学年

「Lesson 3 Hello, Everyone.」

C

A

【ねらい】

既習表現を使って自己紹介したり、自分についての手紙を書く活動を通して、ALTの母へどのような手紙を書くかを考えるようにする。

1 あいさつ・ウォームアップをする。

- ウォームアップとして本時の活動に関わる言語活動(好きなこと紹介)に取り組みさせる。

2 単元の課題をつかむ。 **課題発見型**

- 教科書の題材についてのピクチャーカードを使って生徒とやり取りしながら、題材の内容を類推させる。



Is Ben a new student? Is he a soccer player?
 What is he doing? (ベンは何してるのかな)

自己紹介してる!



That's right! He is introducing himself.
 You have a letter from Mary's mother.
 Now, I will read it.

- 単元の課題の「目的・場面・状況」を捉えさせる。

【ALTの母からの手紙】

Hello, everyone. My name is Ellen. I am Mary's mom. I am a professional figure skating coach. I am 60 years old. I am from America. I live in Florida in the USA. I like dogs and cats. Do you like animals? Thank you.

May 22, 2018 Ellen Smith

返事を書いて、自分や学校のことを紹介したいなあ。



【単元の課題】

アメリカに住むALTの母に自分のことや学校のことを知ってもらうために、質問を含めた自己紹介文(手紙)を書こう。

3 本時のめあてをつかむ。

- 既習事項を使って自己紹介し合う。

【本時のめあて】

友だちに自分のことを紹介して、どのような手紙を書いたらよいか考えよう。

4 本時の活動に取り組む。

- (1) 既習表現を使って、ペアで自己紹介し合う。
- (2) 自己紹介した内容を英語で書く。(試しの活動)

【生徒が書いた手紙】

Hello. My name is....
 I like cats. I like tennis. I play basketball every day ..

- (3) ALTの母の手紙と比較する。

手紙では、相手にいろいろ聞くから、疑問文を勉強することは必要ね。



5 本時の振り返りをする。

- 自己紹介で伝えられたことや感じたこと等を振り返らせる。

- ☆I playやI likeを使って自己紹介が書けた。【言語面】
- ☆母の手紙から、ALTのお母さんのことが分かった。質問を書く相手も返事をしやすい。【内容面】

2 単位時間の作り方（「追究する」過程）【例】

「追究する」過程では、単元の課題解決に向けて、知識及び技能を一つずつ積み上げ、言語活動において活用させながら思考力、判断力、表現力等を鍛える段階です。児童生徒の思いや考えを大切にしたい言語活動を設定しましょう。

【指導のポイント】

【帯活動・Small Talk】

帯活動【中学校】

○既習事項を繰り返し使用し、生徒の思いや考えが反映される言語活動にする。

Small Talk【小学校高学年】

P144 を参照

○5年生では教師と児童中心のやり取り。

○6年生では教師と児童のやり取りから、児童同士のやり取りにつなげる。児童が言えなかったことをクラス全体で共有し、既習事項に結び付けて指導する。

基本的な流れ

1 あいさつ・ウォームアップをする。

2 Small Talk・帯活動を行う。（外国語科）

【中学校】

・帯活動に取り組みさせる。

【小学校高学年】

・Small Talk（2時間に1回程度）に取り組みさせる。

3 本時のめあてをつかむ。

●教師が本時の学習内容につながる実演等を行う。

【本時のめあて】

4 本時の活動に取り組む。

【小学校】

【中学校】

<外国語活動>

A 新出言語材料の音声に十分に慣れ親しませる。（聞く、話す）

B 音声に慣れ親しんだ新出言語材料を活用する言語活動に取り組みさせる。

B C 体験を通じて理解を深めさせる。

<外国語科>【高学年】

A 外国語活動の取組に加え、必要に応じて、新出言語材料を理解させたり、練習させたりする。

A 音声に十分に慣れ親しんだ新出言語材料を読んだり、書いたりさせる。

<外国語科>

A 新出言語材料を理解させたり、練習させたりする。

B 新出言語材料を習得するための言語活動に取り組みさせる。

C 教科書本文を理解するための言語活動に取り組みさせる。

【新出言語材料、教科書、教材】

○リズムやチャンツ、教材の音声等を使って「聞くこと」から「話すこと」につなげる。

○言語活動は相手意識と伝え合う内容がある活動となるようにする。

○やり取りのポイントを示すなど、他者に配慮する意識をもたせる。

○「書くこと」においては、丁寧に書くなど、相手意識をもって、書き写させる。

○新出言語材料を理解させる際、文意の中で働きを捉えさせる。

○教科書の本文理解においては、自分の考えを伝え合う言語活動につなげる。

【振り返り】

○言語面の振り返りは、めあてに沿って言えたことや、言いたかったが言えなかったことなど学習した知識及び技能に関するもの。

○内容面は伝え合った内容について、分かったことや感じたこと等。

5 本時の振り返りをする。

●言語面と内容面について、本時の学習を振り返らせる。

単位時間の振り返り ※個人

※新出言語材料の学習においては、単元の課題との関連を児童・生徒が意識できるようにする。

小学校 第5学年

A B

「I want to go to Italy.」

【単元の課題】

〇〇市をすばらしさを知ってもらうために、他校のALTを〇〇市のおすすめの場所に誘おう。

【ねらい】

チャンツやインタビュー活動を通して、行きたい国でやりたいことを訪ねたり、答えたりすることができるようにする。

- 1 あいさつ・ウォームアップをする。
 - 2 Small Talkをする。(5年生：教師と児童)
- 「What food do you like?」について児童に答えさせる。

3 本時のめあてをつかむ



〇〇市のおすすめの場所を伝える時には、「どこに行きたい?」「〇〇したい」って表現ができるといいよね。

【本時のめあて】

行きたい国でやりたいことを、尋ねたり答えたりしよう。

4 本時の活動に取り組む。

(1) 話したり聞いたりする活動に取り組む。

①チャンツ

- 音声教材のリズムに合わせて、「Where do you want to go~?」「I want to go to~.」の音声に慣れ親しませる。

②インタビュー

- ペアになって行きたい国や、そこでやりたいことをインタビューさせる。

S1: Where do you want to go?
S2: I want to go to Italy.
S1: You want to go to Italy. Why?
S2: I want to eat pizza. I like pizza.
S1: Nice.

- 「やり取りのポイント」を示し、相手に配慮しながらインタビューさせる。

【やり取りのポイント】

- ①くり返し (You want to go to Italy.)
- ②関連する質問 (Why?)
- ③相づち (Nice.)



- 模範となる児童に発表させ、よいところを自分のやり取りに反映させる。【中間評価】

〇〇さんにみんなの前でやってもらいますね。どんなところがよいですか?



(2) 読む活動や書く(書き写す)活動に取り組む。

- 本時で慣れ親しんだ「I want to eat~.」の英文をワークシートに書き写させる。

5 本時の振り返りをする。

- めあてに沿って言えたことや、言いたかったことを振り返らせる。
- 友達の行きたい国など、やり取りを通じて知ったことも書くよう促す。

☆「I want to go to China.」「I want to see 万里の長城.」と言うことができた。【言語面】

☆Aさんが〇〇が好きだということを初めて知って驚いた。【内容面】

中学校 第1学年

B

「Lesson 3 Hello, Everyone.」

【ねらい】

ALTの自己紹介の内容に対するQ&A活動を通して、興味のある事柄をAre you ~?や既習のDo you ~?などの疑問文を作らせ、質問できるようにする。

- 1 あいさつをする。
 - 2 帯活動をする。
- 既習事項を使って、好きな物についてやり取りさせる。

S1: Hello. My name is
I like soccer. Do you like soccer?
S2: Yes, I do. I like soccer, too.
S1: Oh, you like soccer. Good

3 本時のめあてをつかむ。

Today, 〇〇 will introduce himself.
Please listen to his hobby and favorite food.
After that, please ask some questions to him.



【本時のめあて】

ALTの自己紹介を聞き、もっと知りたいことを尋ねよう。

4 本時の活動に取り組む。

- ALTの自己紹介を聞いたり、読んだりし、詳しく聞きたいことについての質問文を考えさせる。
- グループ内で互いの質問文を修正させる。
- グループごとにALTの自己紹介を聞き、ALTとやり取りさせる。

【ALTの自己紹介からのやり取り】

ALT: Hello, I am Mary. I am 28 years old. I have one brother and no sisters. I'm from America. I like sports very much. And I like Japanese food. Thank you.
S: What Japanese food do you like?
ALT: Sushi.
S: Oh, sushi. Me, too.
S: Are you a baseball fan?
ALT: Yes, I love baseball.
S: Do you have a favorite team?

- 模範となるグループに発表させ、よいところを自分たちのやり取りに反映させる。【中間評価】

What is a good point of A group?



相手が話したことについて質問し、そこから、違う話題にいくと自然な会話になるな。



5 本時の振り返りをする。

- めあてに沿って言えたことや、言いたかったことを振り返らせる。
- 会話の内容について感じたことも書くよう促す。

☆「Are you ~?」や「Do you ~?」を使い質問できた。「〇〇へ行ったことがありますか」と言いたいと思った。【言語面】

☆会話の流れに沿って質問できた。ALTが〇〇について知っていたので驚いた。【内容面】

2 単位時間の作り方（「まとめる」過程）【例】

「まとめる」過程では、「追究する」過程で習得した知識及び技能や整理した情報、考えなどを活用し、単元の課題に示された伝え合う活動に取り組みます。本単元を通じて、習得してきたことを表現し、何ができるようになったのかを児童生徒が自覚できるようにしましょう。

【指導のポイント】

【教師の実演】

- 小学校では教師が実演することで、目的・場面・状況をつかみやすくなる。
- 中学校では、言語活動における英語表現も思考、判断させるため、教師は実演等で単元の課題を解決した姿を示し過ぎないようにする。

【単元の課題を解決する言語活動】

- <外国語科（小学校）>
- 外国語活動のポイントに加え、これまで書きためてきた英文を清書する。これを発表等に活用できる。
- 【具体例：小学校6年】
- 行きたい国を紹介する活動で、紹介する国の写真の下に「I want to go to China. I want to see pandas.」など書いたポスターを作成する。
- ※「書くこと」においては丁寧に書くことが他者への配慮であることを指導する。

【中間評価】

- 児童生徒が言いたかったが言えなかった表現について指導し、全体でも共有する。

【単元全体の振り返り】

- 外国語活動では、言語面としてできたことや、言えたことなどに視点をあてるようにする。
 - 中学校と小学校高学年では、言語面として単元を通じて児童生徒が何ができるようになったか自覚できるようにする。
- <振り返りの視点の例>
- ◆英語で何が言えたか
 - ◆どんなやり取りができるようになったか
 - ◆コミュニケーション等によって発見したこと
 - ◆深められたこと

基本的な流れ

1 あいさつ・ウォームアップをする。

2 Small Talk・帯活動を行う。（外国語科）

3 本時のめあてをつかむ。

- これまでの学習内容を想起させる。
- 教師が実演する等、単元の課題を解決した姿を示し、何をどのように行えばいいのか（できればいいのか）をつかませる。

【本時のめあて】

4 単元の課題に示された伝え合う活動に取り組む。

- 既習事項も含め、これまでの学習において書きためた英文や、使うことができるようになった表現を見直すなどしてこれまでの学びを踏まえさせる。
- 単元の課題を解決する言語活動に取り組ませる。その際、「目的・場面・状況」を再確認させる。
- 中間評価を行い、他の児童生徒のよい例を示し、よかった点を児童生徒に問いかけ、全体で共有させる。
- 取組を見直した後、再び言語活動に取り組ませる。

5 単元全体の振り返りをする。

単元全体の振り返り

- 単元全体を通して、言語面と内容面で振り返らせる。

※言語活動は学習段階に応じた技能が統合された活動となるように設定し、それぞれの技能をバランスよく育成する。

小学校 第4学年

「Unit 7 What do you want?」

【ねらい】

オリジナルピザコンテストを通して、相手に配慮しながら、基本的な表現や慣れ親しんだ表現を使って自分の作ったピザを紹介し合うようにする。

1 あいさつ・ウォームアップをする。

- デジタル教材のチャンツに合わせて野菜や果物を繰り返し言わせる。

2 本時のめあてをつかむ。

- 教師の実演から、これまでの学習を想起させる。

T1 : Hi! This is a colorful pizza. (作ったピザを見せる)

T2 : Oh, nice.

T1 : I have tomatoes, corn, green peppers and sausages.

I like tomatoes. So I have four tomatoes. This is a colorful pizza.

T2 : Oh, it's a great pizza!

T1 : Thank you.



どんな話をしていたかな？

今日はオリジナルピザを紹介し合っ、食べてみたいピザに投票をしましょう。

【本時のめあて】

多くの友だちに食べたいと思ってもらえるように、オリジナルピザを作って紹介し合おう。

3 単元の課題に示された伝え合う活動に取り組む。

- 相手に配慮をしながら活動に取り組ませるために「やり取りのポイント」を意識させる。

【やり取りのポイント】(外国語活動)

①はっきりした声で ②笑顔で ③相手をよく見て

- グループで取り組ませる。

S1 : Hi! This is a Genki morimori pizza.

S2 : Wow!

S1 : I have tomatoes, cheese, bacon and sausages.

I like cheese. So I have a lot of cheese. This is a

Genki morimori pizza.

S2 : Oh, it's a great pizza!

S1 : Thank you.



- 模範となる児童に発表させ、よいところを自分のやり取りに反映させる。【中間評価】
- 代表者の発表を見て、発表の時のよさや工夫している点に気付かせ、学級全体で共有する。
- 自分の取組を見直させ、再度取り組ませる。

4 単元全体の振り返りをする。

- 言えたことや、やり取りのポイントを意識できたかについて振り返らせる。
- 言いたいと思ったことについても書かせる。

☆「これは体にいいよ」「これは元気がでるよ」とかいろいろ英語の言葉を知って、伝えたいです。【言語面】
☆絶対にみんなに食べてほしいピザなので、相手の目を見て一生懸命伝えられた。【内容面】

小学校 第5学年

「I want to go to Italy.」

【ねらい】

おすすめの場所について理由を含めて説明したり、自分の考えや気持ちなどを伝えたりする活動を通して、他校のALTを〇〇市のおすすめの場所に誘うことができるようにする。

1 あいさつ・ウォームアップをする。

- 「Where do you want to go?」「I want to go to ~」のチャンツに取り組ませたりして、これまでの学習を想起させる。

2 Small Talkをする。(5年生：教師と児童)

- 行きたい国や、そこでしたいことについて答えさせる。

3 本時のめあてをつかむ。

- これまでの学習を想起させながら、本時の活動について教師が実演し、意欲を引き出す。

今日はALTの皆さんにみんなの住んでいる〇〇市を紹介するんだよね。



【本時のめあて】

〇〇市のすばらしさを知ってもらうために、他校のALTに希望を聞き、〇〇市のおすすめの場所に誘おう。

4 単元の課題に示された伝え合う活動に取り組む。

(1) 単元の課題を解決する言語活動に取り組む。

- ①友達や他校のALTをおすすめの場所に誘う。
- 他者に配慮をしながら、やり取りするために「やり取りのポイント」を意識させる。

やり取りする時はどんなことに気を付けると、自然なやり取りができるのかな？



【やり取りのポイント】

(外国語科)

- ①関連する質問 (Do you like mountains?)
- ②繰り返し (You like mountains.)
- ③相づち (Me too.)

- 模範となるグループに発表させ、よいところを自分たちのグループのやり取りに反映させる。【中間評価】
- 代表グループの発表を見て、発表の時のよさや工夫している点に気付かせ、学級全体で共有する。
- 自分たちの取組を見直させ、再度取り組ませる。

(2) 読む活動や書く(書き写す)活動に取り組む。

- これまで少しずつ書き溜めていたものを一枚のワークシートにまとめさせる。

5 単元全体の振り返りをする。

- おすすめの場所に誘う際に、言えたことややり取りのポイントを意識できたかについて振り返らせる。
- 言いたいと思ったことについても書かせる。

☆「Do you want to go to ~?」の後に「Do you like ~?」と質問し、会話を長く続けることができた。【言語面】
☆無料の動物園にびっくりするALTが多かった。〇〇市にはいいところがあるなと思った。【内容面】

3 学習過程と教科書との関連

小学校の教材や教科書は、冒頭の見開きのページに題材に関する絵や写真が用意されており、それを見ながら教師と児童が英語でやり取りし、題材の内容をつかめるような構成となっています。中学校の教科書は本文の題材に関係した単元の課題を設定することで、社会的な話題等、幅広い分野で言語活動ができるようになっています。



✓ 題材的な扱い

小学校

- 各単元における単元の課題は、題材に関する課題を立てるようにする。単元の課題の解決に向けて、教科書や教材に示された言語活動に取り組む中で、題材についても理解を深めることができる。

中学校

- 教科書本文は内容を理解して終わりにするのではなく、内容を元とした言語活動の素材として利用することができる。
- 〈例〉
- ・教科書の社会的な題材を理解することを通して、実生活の課題について議論する。
- ・教科書の物語を読んで、感銘した箇所について感想をまとめたり、伝え合うことで、物語を深く理解する。

✓ 資料的な扱い

小学校

- 教科書や教材には目的・場面・状況のある言語活動が示されている。その言語活動を行う前の準備段階で、言語材料に慣れ親しむために、デジタル教材の音声や映像等を利用する。
- 巻末の絵カードや文字のカードも言語活動を行うための教具として活用できる。

中学校

- 言語材料を活用する際、言語材料の使用例として教科書の本文を参照することができる。
- 巻末の基本表現や不規則動詞活用表を英文を書く際に参照したり、語彙一覧表を辞書のように参照したりすることができる。



4 学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
聞き取ることが困難な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・一言一句を聞き取れないことで、英語を聞き取ることにより困難さを感じているため、概要を聞き取る指導する。 ・説明を短くするとともに、視覚的にも把握できるよう、図や絵、板書などを併用する。
文字と音声一致せず、読むことが困難な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・音読を聞く際に、音読している箇所を指でなぞったり、定規を当てさせたりして、音と文字を一致させる。
人前で話すことに抵抗をもつ場合	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ではなくグループで発表させたり、教師が横で支援したりしながら、取り組ませるようにする。
小学校において、文字を4線の中におさめて書くことが困難な場合	<ul style="list-style-type: none"> ・書く分量を少なくしたり、バランスのよい文字が書けるよう、2段目の縦幅が広い4線のワークシート等を活用する。

5 情報活用能力の育成

外国語科における情報とは・・・言語活動において伝え合う内容
 〈例〉 小学校：自分で考えたピザを紹介し合う活動におけるオリジナルピザ
 中学校：ALTの母に自分のことや自分を紹介するために書く手紙

情報の収集

教科書やコンピューター、ALTなどから、英語を聞いたり読んだりして必要な情報を捉えます。

〈例〉 単元の課題：ロボットが生活に入ってくることについて賛成か反対かディベートで伝え合う。教科書を読んで、ロボットと生活にすることの良い点と悪い点について調べる。



基本的な操作 〈例〉

- 題材に関する資料や情報を入手する学習
⇒コンピューターや情報通信ネットワークを使ったインターネットの閲覧
- 目的に応じた必要な情報を読み取る学習
⇒コンピューターや情報通信ネットワークを使って電子メール等を閲覧
- 様々な発音や英語の音声に触れる学習
⇒コンピューターや情報通信ネットワークを使って、英語の音声を含む映像等の閲覧
- 英語で情報を発信する学習
⇒キーボードで英文を入力
⇒適切なファイル名やフォルダ名を付け、電子ファイルデータを保存
⇒電子メール等で、英語で情報を発信



問題解決における情報活用

情報の整理・比較

英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を選択・抽出したり、情報を整理したりします。

〈例〉 得られた情報を元にし、自分がロボットと生活することについて賛成か、反対かを決め、論理立てて伝えられるように情報を整理する。



情報の発信・伝達

英語で話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現します。

〈例〉 ロボット生活することについての自分の考えに適した英語表現を選択し、相手に伝わるよう話す。



情報モラル・セキュリティ

- ・場面や伝える内容に適した英語の選択
- ・メールでの宛名や結びの書き方 など



6 地域の人材や物的資源の活用

外国語科ではALTや外国語指導支援員、英語の得意な方によるボランティアといった地域の方々に協力いただき、チームティーチング（TT）で指導している学校が多くあります。

以下のサイトは、TT指導等も含め、英語教育について様々な情報が提供されていますので、参考にしてください。

○（財）英語教育協議（ELEC）（文部科学省 協力）

えいごネット ～英語教員のためのポータルサイト～



<http://www.eigo-net.jp/>

英語教員のためのポータルサイト

検索

【参考】 Small Talk

小学校 Small Talk

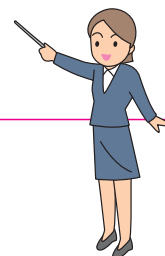
2時間に1回程度、あるテーマについて、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりする帯活動です。児童が興味・関心のある身近な話題について、自分の考えや気持ちを楽しみながら伝え合う中で、既習表現を繰り返し使用し、その定着を図ります。

互いの考えや気持ちを伝え合うと…
「本当のことを言うから、楽しい」
「その場で何が出てくるか
分からないから、話して楽しい」
「今まで習った語句や表現から
どれを使えばいいかを考えて
相手に伝わったときはうれしい」



Small Talkを行うために、教師は次のようなことが大切です。

- 児童の既習語句・表現を把握していること
- 話題を設定できること
- 児童とやりとりする英語力
- 児童が言えなかったことを既習表現に言い換える力



言えなかったことを既習表現に言い換える力（例）



教師：What sports do you like?

児童A：I like baseball.



教師：Oh, you like baseball. How about you? Bさん



児童B：好きなスポーツはない。



教師：「好きなスポーツはない」ってなんて言うのかな。みんなで考えよう。



【参考】 領域を統合した言語活動

中学校 領域を統合した言語活動

「聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること」や「伝える内容を整理し、話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと」など、複数の領域を効果的に関連付ける言語活動です。

領域を統合した言語活動（例）

- ① 教科書の題材「キング牧師」について本文を読んだり（読む）、ALTから聞いた話をもとに（聞く）人種差別について自分が思ったことや感じたことをキーワードでマッピングさせる。
- ② マッピングをもとに、みんなの前でプレゼンテーション（話す）をさせる。
- ③ プレゼンテーションで話したことを、英語で書かせる。（書く）

※ 書かせた文章における文法や語彙のミスを訂正するのではなく、印をつけ、生徒にミスを修正させる。

